

令和元年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

我孫子市立根戸小学校

＜教科に関する調査結果より＞

総合的にみて、本校の結果は国語・算数におけるどの観点も全国・県平均を大きく上回っている。

【国語】

全ての項目で全国・県平均を上回っている。特に、「話す・聞く」や「言語」の項目は大きく上回っている。「話す・聞く」においては、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができている。「言語」においては、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。また、文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くこともできている。

しかし、それらに比べると、「書く」の項目についてはやや低くなっている。目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことについては、さらに力をつけていく必要がある。また、平成30年度の本校の調査結果と比較しても、「書く」の項目については、大きく下がっている。

今年度より校内研究の教科を国語に切りかえ、「書く」ことに重点を置いた研究を行っている。読書活動と関連付けながら言語活動を深め、指導法を検証し、豊かに文章表現できる児童の育成を目指していきたい。

【算数】

全ての項目で全国・県平均を大きく上回っている。特に、「量と測定」の項目は大きく上回っており、示された形の面積の求め方の説明を記述できている。また、資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することができる。

しかし、平成30年度の本校の調査結果と比較すると、「量と測定」以外の項目については下回っている。特に、「数量関係」において、棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができていない。

本校では、算数の少人数指導においても、人間関係づくりの観点から、異学級の児童で構成されたグループにし、単元毎にグループを、学期毎に学級の組み合わせを変更し、より多くの児童と関わり合いながら学習できる環境をつくることを目指してきた。しかし、担任が学級児童の算数における実態を把握しにくい場合があり、習熟できていない児童へのフォローが不十分となることもある、編成の回数が多く、落ち着いた環境で学習することができず、学習内容が定着しづらいことも考えられるなどといったことも課題として挙げられていた。それらが、今回の結果に影響している可能性も考えられる。

そのため、少人数指導で学習した後、単元の終わりの練習問題を解く際は担任と少人数担当でTT指導に当たるようにしたり、編成の間隔を2単元毎と長くして関係の作れたメンバーで学習する機会を多くしたりすることで、基礎基本、学習内容の定着を目指していきたい。

<児童に対する質問紙調査結果より>

本校では、これまで体育科の研究やA P (Adventure Program) 活動等を通して児童の「人間関係」を構築することや「自己有用感・自己有能感」を高めることを目指してきた。今年度より、国語科の研究に切りかえ、「読書活動の充実」や、「書くことに重点を置いた指導」に力を入れている。

また、経営方針においては「自律」をテーマとし、日々の指導にあたっている。これらに当てはまる主な項目についての本校の状況は、以下のとおりである。

「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合

(5) 自分にはよいところがあると思いますか。(自己有用感・自己有能感)

【昨年度】 89. 8%→【今年度】 90. 6%

(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(自己有用感・自己有能感)

【昨年度】 88. 8%→【今年度】 89. 0%

(8) 将来の夢や、目標を持っていますか。(自律)

【昨年度】 90. 9%→【今年度】 87. 3%

(13) 学校のきまりを守っていますか。(自律)

【昨年度】 98. 0%→【今年度】 98. 9%

(17) 家で、計画を立てて勉強をしていますか。(自律)

【昨年度】 79. 6%→【今年度】 79. 1%

(21) 読書は好きですか。(読書活動)

【昨年度】 DATAなし→【今年度】 76. 4%

(29) 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。(人間関係)

【昨年度】 85. 7%→【今年度】 81. 9%

(42) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。(書く)

【昨年度】 DATAなし→【今年度】 85. 2%

(43) 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか。(書く)

【昨年度】 DATAなし→【今年度】 79. 1%

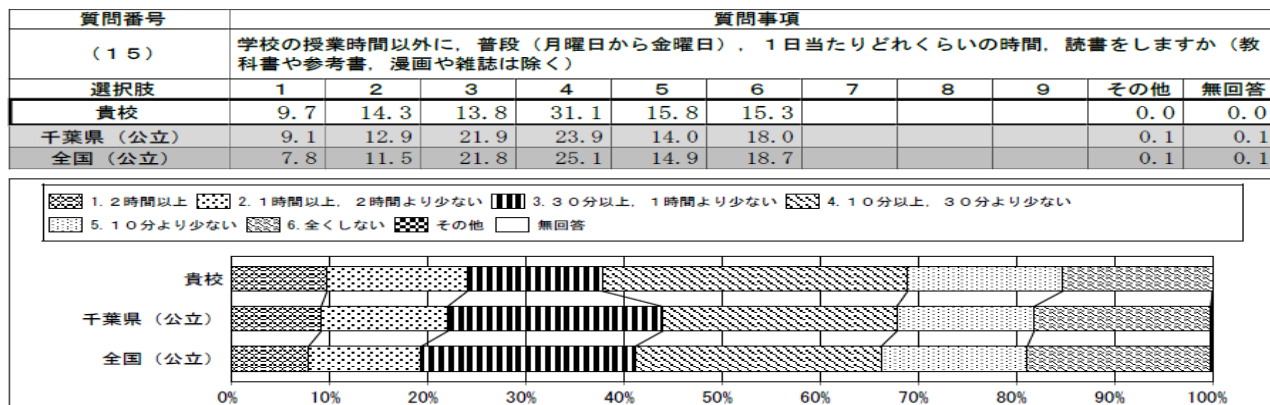
※ 昨年度「DATAなし」の項目は今年度新設のため

数値からも、全体的に描いている児童像に近い姿になっているようだ。よい人間関係の中で、協力して学習に取り組んだり、日々の生活を過ごしたりしていることがわかる。これまでの体育や算数を中心に学び合う活動（アクティブラーニング）や、毎年度の学級編成、高学年における少人数指導などの取り組み等の成果が発揮されていると考える。

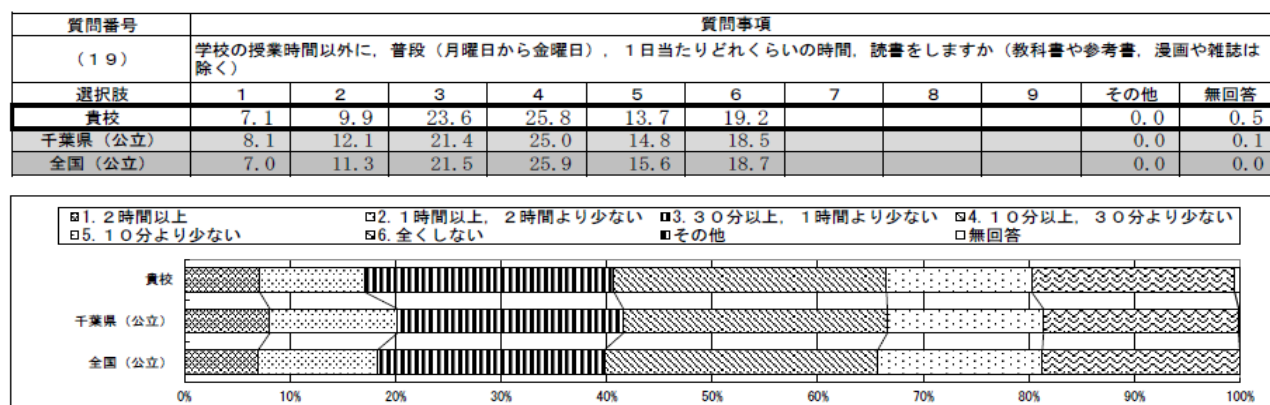
これは6年生のみを対象に行った調査の結果と昨年度の6年生の結果を比較したものであり、対象も異なるため一概には言えないが、「人間関係づくり」や「自律」というキーワードをもとに活動することにより、自分を大切に思ったり、自分を認めたりする児童が多いことが分かる。

また、国語の研究に関する項目については、昨年度から継続して取り組んでいる「読書の充実」、今年度の「書くことに重点を置いた指導」共に、全国・県平均を上回っているものの、まだ意識の向上が期待できる数値である。また、読書習慣については、下記の項目からも分析できる。

【昨年度】



【今年度】



1日に読書をする時間については、県平均よりは下回り、全国平均とほぼ同等である。昨年度の調査では、読書をする児童は長時間行うが、しない児童はほとんどしないという、両極端な状況である。

そのため、読書に親しみのない児童が読書の面白さを感じられるよう、校長おすすめの本を紹介する「校長のひとりブックトーク」、校長が毎月1冊図書室に寄贈する「ノグチゲラ文庫」などの取り組みを通して、児童を読書の世界に引き込んできた。また、ブックワゴンを各学年の廊下に設置し、いつでも図書を手に取れる環境も整えてきた。

その結果、1日30分以上読書するという児童は昨年度37.8%だったのに対し、今年度は40.6%と向上した。

しかし、全く読書をしないという児童も増えている。今後は、そういった児童に対し、読書の魅力を伝えていく取り組みが必要である。

今年度は、上記のような取り組みに加え、週1回、学級担任による読み聞かせや国語での図書を活用した授業づくり等を実施していく。より身近な担任から本の魅力や必要性を伝えることで、自ら本を手取る児童が増えてほしいと考える。更に、図書委員会の活動などにおいても、読書を推奨する催しを企画している。今年度は、より身近な存在からもアプローチしていき、読書習慣を定着させていきたい。